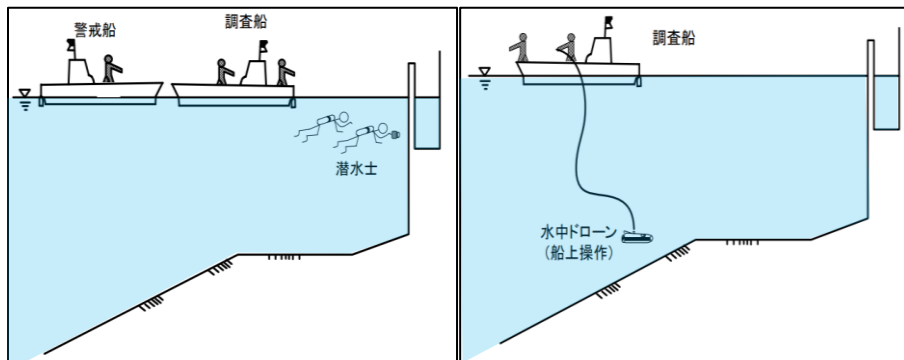


横浜港の生きもの
海の中の様子を見てみよう！



観察の様子



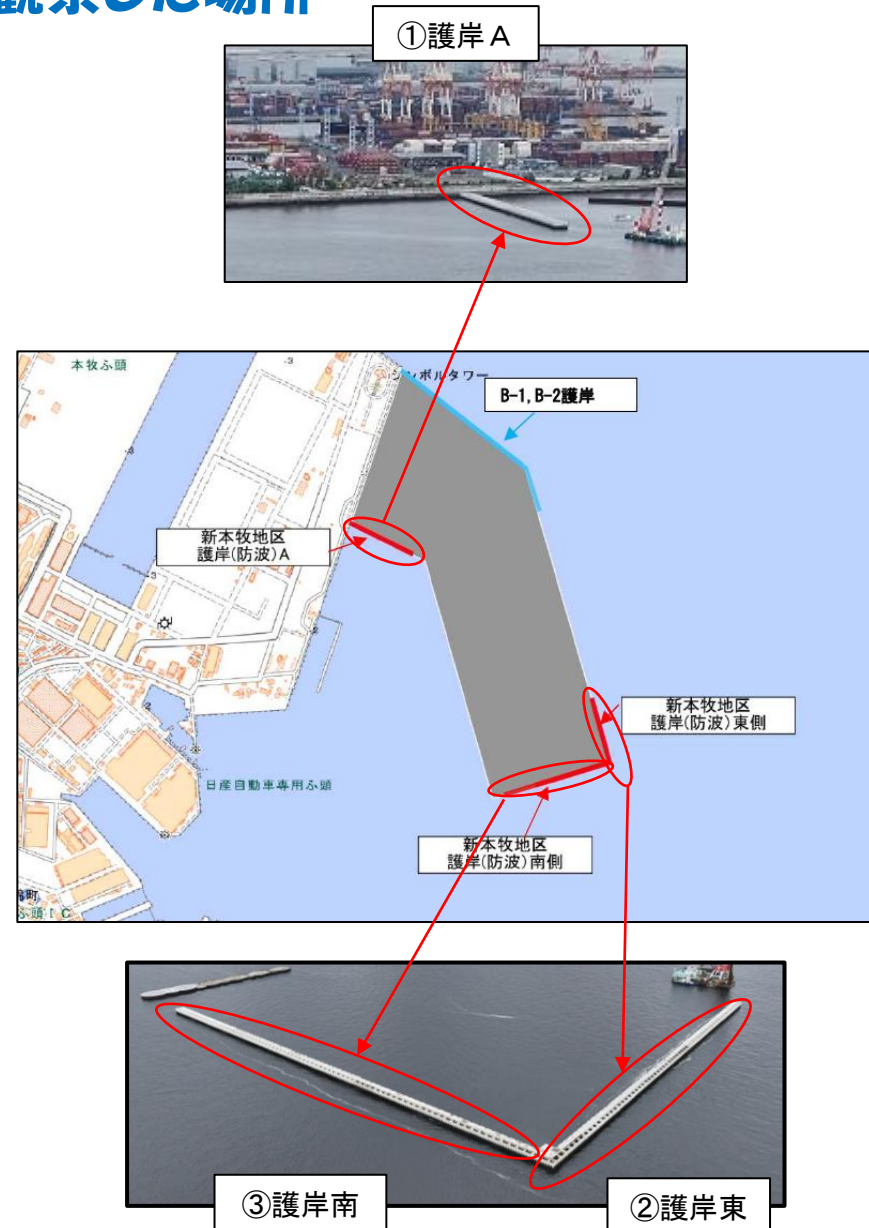
実際に潜水土が海に
潜って、海の中の様子
や生きものを観察し
てるよ



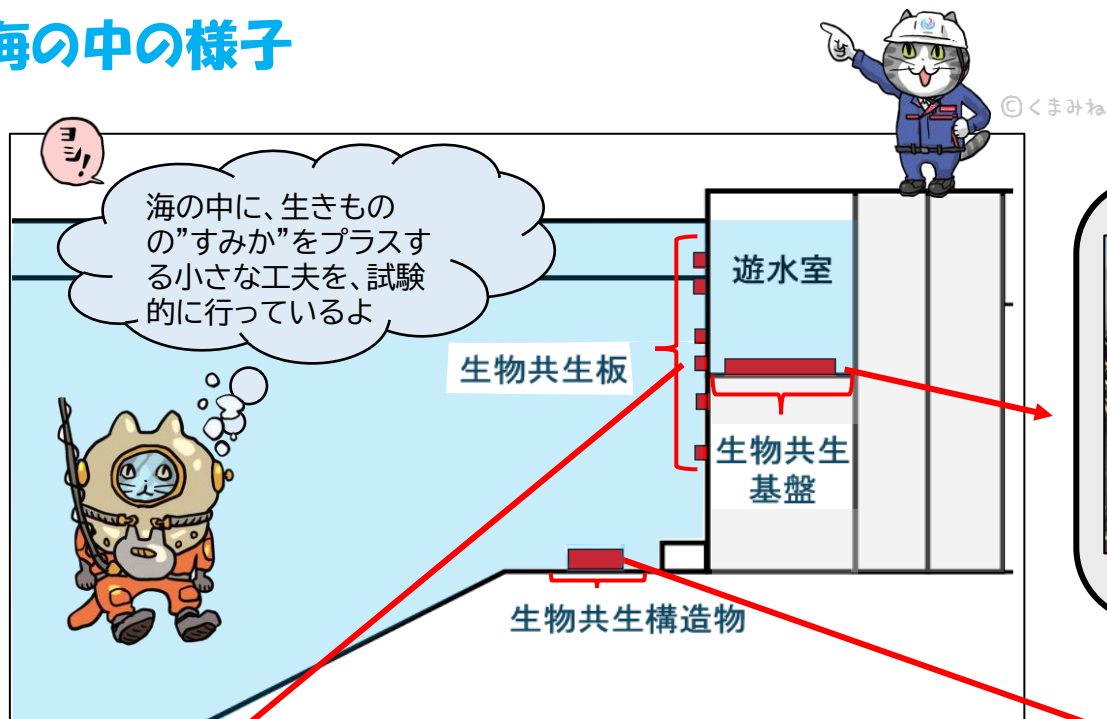
©くまみね



観察した場所



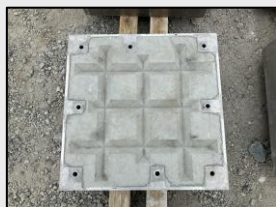
海の中の様子



生物共生基盤



生物共生板



生物共生構造物



横浜港新本牧地区で見られた生きもの

横浜港新本牧地区で見られた 生きものを紹介します！

見られた地点

- ①護岸A
- ②護岸東
- ③護岸南

【海綿動物】 水深が浅い場所から深海まで、岩や海藻などに張り付いて生活します。

海綿動物門

【見られた地点：①・②・③】

形は円筒状、樹枝状、壺状、または不規則な塊状で、岩、海藻、人工構造物などの固い基質に固着して生活します。運動神経や感覚器官はありません。おもに体内に含まれる骨片や海綿質繊維の有無などで4綱に分けられます。



【刺胞動物】 クラゲ、サンゴ、イソギンチャクの仲間です。刺胞と呼ばれる、毒液を注入する針を備えた刺細胞を持っています。

タテジマイソギンチャク

【見られた地点：①・②・③】

体の直径1cm前後の小型のイソギンチャクです。体表には黄色からオレンジ色の縦縞のあるものが多いですが、そのような縦縞のないものもあります。生息場所は少し淡水の影響を受ける内湾の岩礁や岸壁の潮間帯中部から下部です。



イソギンチャク目

【見られた地点：①・②・③】

岩や人工構造物などに付着しているものや海底に体が埋まっているものなどがあります。着底生活を送りますが、移動することも知られています。



【軟体動物】 貝類、イカ、タコなどの仲間です。体には骨格がなく、粘膜で覆われています。

アカニシ

【見られた地点：①】

高は15cmほど、殻径は12cmほどの巻貝で、殻口内は赤く、肉は食用になります。おもに内湾の水深10m～20mの砂泥に生息し、他の貝を食べます。北海道以南に分布します。



レイシガイ

【見られた地点：①】

殻高5cmほどの巻貝で、殻の表面にコブ状のイボが並びます。初夏に集団で密集して産卵する様子が見られます。北海道南部、男鹿半島以南に分布します。



クロシタナシウミウシ

【見られた地点：①・②・③】

全長5cmほどで体はとても柔らかく、背面、腹面ともに黒色です。周縁部は波打ち、黄褐色で触角の先端も黄みがかっています。日本および世界各地に分布します。



マダコ

【見られた地点：①】

一般的な食用種で、全長60cmほどになります。体色や形を変化させて周囲の環境に擬態します。敵から襲われるとスミを吐いて逃走したり、隙間の奥に潜り込みます。潮下帯の岩礁や砂泥底に生息していますが、潮溜まりの岩の隙間にいることもあります。



ムラサキガイ

【見られた地点：①】

殻長は5cmほどで殻表は平滑でやや薄く、殻皮は黒紫色をしています。地中海原産の外来種です。北海道南部から九州の潮間帯から潮下帯に生息します。



ミドリイガイ

【見られた地点：①・②・③】

殻長は8cmほどで殻は薄く、鮮やかな緑色を帯びています。インド洋・西太平洋の熱帯域が原産の外来種です。1980年代以降、本州南部太平洋・瀬戸内海沿岸の各地の港湾に定着しました。潮間帯から潮下帯に生息します。



マガキ

【見られた地点：①・②・③】

殻長15cmほどで左殻で岩に固着します。内湾性で富栄養の海域によくみられます。潮間帯や潮下帯の岩礁に生息していて、夏に産卵します。北海道以南に生息していますが、サロマ湖などの北方個体は巨大になることが知られています。



イボニシ

【見られた地点：①】

成員の殻高は2~4cmの紡錘形で、高さのない多くのイボ状の結節が表面を覆っており、貝殻全体は黒褐色に見えます。肉食性で他の貝やフジツボ等を食べます。身は食用可能とする地方も知られています。



シマメノウフネガイ

【見られた地点：①】

スリッパに似た形の巻貝で、潮間帯から水深30mの海域で、巻貝や二枚貝、岸壁や岩などに付着して生活しています。北海道から九州まで日本各地に分布しています。



【環形動物】ゴカイやミズミズなどの仲間です。体は細長く、多くは海底に生息しています。

ミズヒキゴカイ科

【見られた地点：①】

体長4cmほどで、砂泥中に生息しています。体部は砂泥中に潜り、各体節から伸びる薄赤色の鰓（えら）だけを水中に出してイトミミズのように動かし、餌を集めます。



カンザシゴカイ科

【見られた地点：①・②・③】

石灰質の棲管を形成して岩等に固着します。虫体の形状はケヤリムシ科に似て頭部は鰓冠があります。鰓糸の一部は変形して棲管の蓋（殻蓋）として機能します。



【節足動物】エビやカニの仲間です。頭、胸、腹の3部、あるいは頭胸、腹の2部に分かれています。体の表面は硬い外骨格で覆われています。

イワフジツボ

【見られた地点：①・③】

殻長は1cm以内と小型であり、殻の外側は灰白色、内側は藤紫色をしています。真夏の炎天下や真冬の氷点下等の過酷な生息環境である潮間帯でも生きていられる生命力があります。潮が満ちて海水につかると、殻の中にある糸状の肢を出して振り動かし動物プランクトンを採取します。



サンカクフジツボ

【見られた地点：①・②】

殻長は2cmほどになる大型のフジツボです。殻は円錐形で殻口は広く、ピンクがかった赤色で、まれに白色の個体もいます。内湾から外洋にいたる潮間帯下部から潮下帯の岩盤上に付着して生息するほか、ブイや護岸等の人工構造物上にもみられます。



タテジマフジツボ

【見られた地点：①・②】

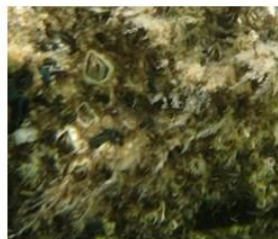
殻長は1cmほどで白地の体色には暗紫色の縦縞模様がみられます。内湾から外洋にかけての潮間帯の岩盤やブイ、護岸などの人工構造物に群生しています。世界で最も多く分布するフジツボの一つで、日本では北海道以南に分布しています。



アメリカフジツボ

【見られた地点：①】

殻長は2cmほどで、貝類や岩などに付着します。低塩分にも耐え、海域や塩分濃度の変化の激しい河口域などの汽水域にも生息する内湾性のフジツボです。本州以南の浅場から潮間帯に生息しています。



ココボーマアカフジツボ

【見られた地点：①・②】

殻長は1〜3cmほどの中型フジツボです。殻の色は赤紫色で、潮間帯の岩場に固まって生息するほか、漁業用の浮きや航路ブイ、船舶の船体にも付着しています。1981年に高知県で発見され、近年急速に分布を広げています。



カニダマシ科

【見られた地点：②】

カニとよく似た外見ですが、ヤドカリの仲間です。カニと異なる点は第2触角が糸状に長く発達している点、またほとんどのカニは左右に移動しますが、カニダマシは前後にも移動できる点が異なります。



イシガニ

【見られた地点：①・③】

甲幅8cmほどになり、各地で食用にされます。東京湾から南に分布し、岩礁、干潟の浅場から水深30mくらいまで生息しています。緑色以外にも紫がかった個体もみられます。



スベスベオウギガニ

【見られた地点：①】

大きさは約2cmほどで、名前のように甲羅がスベスベしています。はさみ脚は左右で大きさが違います。岩礁や護岸などに生息しており、東北地方以南に分布しています。



【棘皮動物】ヒトデ、ウニ、ナマコの仲間です。体は刺のある皮膚や殻で覆われています。

イトマキヒトデ

【見られた地点：①・②・③】

大きさは幅長（ふくちょう：ヒトデの中心から腕の先までの長さ）で7～10cmほどです。腕は短く先端はややとがり、五角形に近い星型をしています。内湾から外洋に至る潮間帯下部から水深300mくらいまでの岩盤上やその下面、転石下に生息します。



キヒトデ

【見られた地点：①】

大きさは幅長で10cmほどで、浅場の砂泥底および岩礁域の砂底に生息します。腕の縁の上側と下側に大きな棘をもっています。体色は上側で黄褐色、口のある下側はやや淡く、生息地によって色彩は変化に富んでいます。



マナマコ

【見られた地点：①】

全長30cmくらいになるほぼ円筒形のナマコです。日本では食用ナマコの代表であって、生食のほか乾燥させた「いりこ」も利用されています。転石の多い海岸の潮間帯下部や潮溜まりなどに生息し、全国各地に分布しています。



サンショウウニ

【見られた地点：②】

殻径は4cmほどになり、殻の背側は円錐形、腹側は平らなウニです。砂底に生息しており、一般的には食用としません。日本海側では佐渡以南、太平洋側では東京湾以南、九州南部までに分布します。



【苔虫動物】多くの種は海に生息し、群体を作ってさまざまな形になります。

ツノマタコケムシ

【見られた地点：①・②・③】

白く硬い骨格はおもに起立して鹿の角のように分岐することが多い。円形状の群体中には、異形個虫が点在しています。この異形個虫は、外敵から群体を防御する役割を担っているといわれています。



フサコケムシ

【見られた地点：①・②・③】

一見海藻のようですが、この姿は小さな虫と呼ばれる動物体が連なって、植物のような群体を形成しています。世界的に分布しており、生物活性天然物であるブリオスタチン類を生産するため、創薬の観点から興味を持たれています。



アミコケムシ科の一種

【見られた地点：①】

大きさは様々で、高さ6cm、幅20cmを超える大型種も見られます。群体は石灰化が進み、硬質堅固で紅色や橙色など鮮やかな体色の種が多くみられます。浅海の岩や石、大型海藻類の根などに着生し、個体が癒着して群体を形成しています。世界中に広く分布しています。



【**脊索動物**】一生あるいは幼生期に脊索（体を支え神経を保護する棒状のもの。ヒトを含む脊椎動物は脊索の周りに骨ができ脊椎となる。）を持つ動物です。単体あるいは群体をつくり、浮遊生活をするもの、岩や貝殻などに固着して生活するものなどがいます。

カタユウレイボヤ

【見られた地点：①】

大きさは10cmほどで、精子の詰まった輸精管が透明な体を透かして縦線状に見えます。本州の各内湾、瀬戸内海に分布します。



エボヤ

【見られた地点：①】

全長は15cmほどになります。体の前端部は長い円筒状で、後端部は細く柄状になります。北西ヨーロッパ、ポルトガル、地中海、北米両岸、オーストラリアなどでは東アジアからの外来種として知られています。



シロボヤ

【見られた地点：①・②・③】

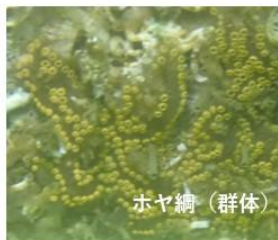
全長5cmほどで、体の後端で他物に付着します。体色は白色または黄白色をしています。潮間帯下部から水深80mの岩礫上や転石の下などに生息するほか、パイや岸壁など人工構造物上に多数みられます。



イタボヤ科の一種

【見られた地点：①・②・③】

群体は膜状で通常2~4mmくらいの厚さになります。生息場所は潮間帯下部から水深20~30mで、岩石、海藻、貝殻などの表面を覆います。北海道以南の日本各地に分布します。



【**脊椎動物**】魚類からヒトまでを含む動物で、脊椎を持ちます。脊椎とは、一般的に背骨と呼ばれる部分です。生きもの調査では魚だけを調べました。

トビエイ

【見られた地点：①】

全長は1.5~1.8mほどになりますがその半分は尾の長さです。尾には毒棘があります。体盤は様に暗褐色ですが、成魚では大きな黒色斑が点在することもあります。腹鰭よりも後方の位置に背鰭があります。北海道以南の各地の沿岸に分布します。



カサゴ

【見られた地点：①・②】

全長約30cmほどになります。沿岸の岩礁域に生息し、エビ・カニ類、小型魚類など何でも食べます。北海道南部以南の各地、東シナ海に分布します。



メバル類

【見られた地点：②】

全長20~30cmほどになります。沿岸の岩礁や護岸付近、干潟域のアマモ場付近などの中層に生息し、小型の魚類、ヨコエビ類、エビ・カニ類、巻貝、ゴカイ類などを食べます。卵胎生で、12月から2月にかけて稚魚が産み出されます。北海道南部から九州にかけて分布します。



クロダイ

【見られた地点：③】

全長30~40cmほどになります。沿岸の岩礁域だけでなく、内湾の藻場や砂泥底、河口域など様々な場所に生息し、小型甲殻類やゴカイ類、貝類、藻類などを食べます。性転換をする魚類としても知られています。産卵期は春から夏で、稚魚が沿岸の浅場でみられます。北海道南部から東アジアに広く分布します。



イソギンポ

【見られた地点：①・②・③】

全長10cm前後の個体が多くみられます。体は平たく鱗がありません。汽水や淡水域に入る個体もみられます。貝殻や石の隙間に隠れ、小型の甲殻類などを食べます。北海道南部から東アジアに広く分布します。



シマイサキ

【見られた地点：①】

全長は20～30cmで、体色は稚魚では褐色で、幼魚は黄色、成長とともに青みを帯びた白色に変わります。数本の黒色縦帯が和名のもとになっています。浮袋に独特の構造を持っており、浮袋を収縮させることで「グーグー」と鳴くことができます。屋久島以北、本州以南に分布します。



シマハゼ類

【見られた地点：①】

全長は5～10cmで、頭部から尾部にかけて2本の黒色縦帯があります。主に内湾や河川汽水域に生息し、岩礁、泥底の石やカキ殻の下や間でも見られます。繁殖期は春から夏で、石の下やカキ殻の中に産卵し、オスは産卵後も巣にとどまり、ふ化するまで卵を保護します。北海道から九州まで日本全国に分布します。



ナベカ

【見られた地点：①】

全長は10cmほどで、頭部や体の前半部には暗褐色から黒褐色の横帯があります。沿岸や内湾の岩礁域などに生息し、ヘビガイなどの貝殻や岩の隙間などで生活します。産卵時は干潮帯付近や潮溜まりなどの岩穴やヘビガイの空殻などに粘着卵を産卵し、オスは卵を守る習性があります。北海道以南から九州南部に分布します。



アイゴ

【見られた地点：①】

全長20～30cmほどで、体は木の葉のように左右に平たくなっており、体色は側面に褐色の横縞が数本あり、全身に白っぽい斑点があります。背鰭、腹鰭、臀鰭の棘に毒をもち、数時間から数週間痛みが続きます。西日本では藻場が消失する磯焼けの原因として、アイゴによる食害が指摘されています。



ゴンズイ

【見られた地点：①】

全長10～20cmほどで、茶褐色の体に頭部から尾部にかけて2本の黄色い線があり、幼魚ほど鮮やかです。ナマズのようなヒゲが生えており、ウロコのない細長の体を持ち、体表はヌルヌルとした粘液に覆われています。胸鰭、背鰭に毒があります。



クロホシヤハズハゼ

【見られた地点：①・③】

全長は5～7cmほどです。頭の断面が円筒形で、吻の傾斜が緩いこと、尾びれ基底の黒色斑が特徴です。内湾の岩礁域の水深4～6mの転石のある砂泥底で見られます。相模湾～琉球列島に分布します。



ニジギンポ

【見られた地点：①・③】

全長12cmほどまで成長します。体色は黒褐色で、体側には暗色縦帯とその上下に白色帯があります。下顎には牙が生えており、噛まれると流血することもあります。沿岸の浅い岩礁域に生息し、北海道から九州まで日本全国に分布します。



コスジイシモチ

【見られた地点：①・②】

全長は12cmほどです。体色は淡い桃色で、体側には赤褐色の縦縞が7本走っています。水深25～30m位までの沿岸の岩礁域などに生息しています。東京湾以南に広く分布します。



ハタンボ属の一種

【見られた地点：③】

浅瀬の岩礁が主な住みかとなり、夜行性で、昼間は岩陰などで大きな群れを作りながら休んでいます。ハタンボ属の魚類は全般的に左右に平たく腹部はやや突き出しています。

